

第4部会 2 コミュニティ意識に関する一研究

— 栃木県足利、小山市の調査から —

宇都宮大学 佐藤暢男

〔研究の意図〕

工業化、都市化が全国的な規模で急速に進展するなかで、地域住民の地域社会に対する意識や態度がいかなる経緯により、どのように変化しつつあるかを明らかにすることがこの研究の主なねらいである。

こうした研究は地域社会の構造をその主観的な側面から入っていくことになるが、同時に、将来の地域社会のあり方、来るべき地域社会の形成について考察する際の基礎資料の一つになるものと考えられる。

〔調査の枠組み〕

本研究においては、人々が一定の地域の地域社会に所属することによってその地域社会に対して抱く意識を、総体として、「コミュニティ意識」として把握し、その中心的な柱として次の3つのものを考えている。

1. 郷土愛、地元への帰属又は定着、地元主義などにつながる郷土意識または伝統的共同体意識
2. 自由、平等、個人主義、合理主義などのエートスとそれらを支える権利意識を含んだ近代的、西政的市民意識
3. 現実の地方自治体の成員としての行政への参加や自治活動への態度や行動に発現されたいわゆる自治意識

ここでは、コミュニティ意識をこれら3つの柱からなる要素の相互関連のなかに見出し、「コミュニティ意識形成のメカニズム」に対してもある程度の接近をはかっておくことを意図している。

また、調査地については、東京から50～100 km圏にある地域から選定することとし、首都圏のより内部の地域と対比して考察をおこなうことができるよう配慮した。〔なお、比較の対象とした文献は、松原、倉沢、似田貝及び佐藤による「大都市周辺における自治意識の実態調査報告書」（社団法人輿論科学協会）である。〕

〔調査地及び調査時期〕

栃木県足利市及び小山市、昭和44年10月

〔調査対象〕

満20才以上の男女、足利、小山市からそれぞれ約300名を選んだ。調査票回収後の有効サンプル数は368名（回収率約60%）であり、その地域別、男女別内訳は次の表に示されている。

	小 山	足 利	計
男	87	107	194
女	85	89	172
計	172	196	368

〔調査方法〕

調査対象者の決定は住民台帳にもとずいておこない、無回答抽出法を用いた。なお、調査票の配布は郵送により、留め置いて調査員が訪問し、その調査票を回収するという手続きをとった。

〔調査結果〕

調査結果のおおまかな特徴を示せば次のような点があげられる。

(イ) 対象者の特徴

出身地別にみると、現生地又は栃木県内が圧倒的に多く、県外居住の経験もないものが多い。また居住年数も10年以上もしくは生れてから、ずっと住んでいる者がかなり多く、居住形態も、「核家」が7割を占めている。言いかえれば、対象者にはかなり土着的な性格をもった者が多いといえる。

(ロ) 郷土意識または伝統的共同体意識

村仕事や町内会など共同体的なきぎなのある地域は多く（村仕事48.9%、町内会90%以上）、地域行動圏（「休日遊びにいくところ」）もかなり狭い。（市内51.2%）多くの住民は市や県に対する愛着を感じており、また地元への定着意識も高い。村仕事などの共同作業についても、「あった方がいい」（31.4%）「あってもやむをえない」（37.2%）とする意見が多く、町内会のあり方についても伝統志向性が強くなるかがわかる。ただし、地域の伝統的行事については時代の変化を肯定し、時代に合わせたやり方を考えていこうという変化への対応の姿勢がみられる。

(ハ) 西欧的市民意識

「個人の自由」を尊重し、まわりの人の考えを気にしないで行動するという考え方は次第に強くなっているようである。市民的自由の確保、主体性や環境に対する、自主性の強化は、ある意味ではまだかなり残っている伝統的、共同体的なさまざまな規制からの解放を希求する意識であるとも受けとれる。しかし、他方政治については「口を出さない方がいい」というような政治的アパシーも色濃くみられる。

(ニ) 自治意識

地域の行政に対する関心という点では、よりローカルな（市や県レベルの）関心が相対的に高いといえる。このことは選挙や納税についての関心によくあらわれている。たとえば、選挙については、市町村議会に対する関心が最も強く（全体の51.1%）、地元の利益を考える傾向も強い。また、まわりの生活環境で困ったことが起った時の解決方法についても、身近なレベルの関係を通じて解決しようとしたり、またそうした解決の方向を目指す傾向が強い。言いかえれば町内会や自治会、市議会議員など地域的なきぎすなに依存する度合いがまだかなり強いといえる。

全体としてみれば、調査地の住民の場合には、まだ伝統的、地域共同体の住民として

の性格が濃厚で、それが地域行動や地域社会活動ないし自治体活動の面にもかなり反映されているといえる。この点で、主観的には、東京の50km圏内部の地域とは異なるコミュニティを形成しているといえよう。